

報告書抄録

ふりがな	にしゆるぎ いせき							
書名	西万木遺跡							
シリーズ名	高島市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	辻川 哲朗							
編集機関	高島市教育委員会事務局文化財課			財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	〒520-1292 滋賀県高島市安曇川町田中455番地 (TEL)0740-32-4467 (FAX)0740-32-3568			〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2 (TEL)077-548-9780 (FAX)077-543-1525 (e-mail)mail@shiga-bunkazai.jp				
発行年月日	平成22年（2010年）3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
にしゆるぎ いせき 西万木遺跡	しがけん だかしまし 滋賀県高島市 あどがわちよう 安曇川町 にしゆるぎ 西万木	25212	247	35° 03′ 20″	135° 51′ 49″	20080922 }	1,000㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
西万木遺跡	—	古代 (9世紀後半～10世紀前半)		—		土師器・須恵器・灰釉陶器		
	—	中世前期 (12世紀後半～13世紀前半)		—		近江型黒色土器		
	集落	中世後期 (15世紀～16世紀)		区画溝・溝・ 掘立柱建物・土 坑・ピット		土器類：土師器皿 輸入陶磁器類：青磁・白磁・朝鮮 王朝陶器等 国産陶器類：信楽・瀬戸・常滑等 石製品類：茶臼・石硯・砥石等 金属器類：双耳長頸瓶・銅銭等 木製品類：漆器椀・下駄等		区画溝によっ て圍繞された 方形の居館跡
	生産関連 (耕地)	近世		井戸・土坑		石臼・石硯・漆器椀等		
要約	<p>西万木遺跡は安曇川右岸下流域の扇状地末端に展開した遺跡である。今回の発掘調査の結果、主に中世後期の在地領主層の屋敷地（居館）の具体的様相を以下とおり明らかにすることができた。</p> <p>①屋敷地は堀（区画溝）と土塁をめぐらせるもので、その規模は半町四方である。</p> <p>②屋敷地は周辺の条里地割に規制され、内部の空間利用も一定の企画性のもとになされていた。</p> <p>③遺構の検討から、屋敷地のあり方は、溝によって細分された小区画に建物が配置された当初の段階から、屋敷地内の小区画の消失・建物配置の移動・土塁の一部削平にみられる防御性の変化・水利用を目的とした区画溝の新設等の点で特徴づけられる段階へ変化したことがわかった。</p> <p>④屋敷の主たる機能時期は、出土土器から15世紀後半～16世紀前半頃に求めた。</p> <p>⑤屋敷の居住者像としては、出土遺物に「唐物」（倣古銅器）や朝鮮王朝陶器等の舶載品をはじめ喫茶関連遺物等の特徴的な遺物があることや、屋敷地の規模・構造等から在地領主層を想定した。</p> <p>⑥文献史料の検討から、屋敷の「主」として、当該期に現西万木付近に居住していた在地領主と推定される万木氏を積極的に想定した。</p> <p>⑦屋敷地が廃絶した背景には天正元年（1573年）の織田信長による高島侵攻の影響があったことを想定した。</p>							